



こうした中で田村氏は、伊達氏とは一定の関係を保ちつつも呑み込まれ

# 愛姫生誕450年記念特集

## 第2回 愛姫を取り巻く戦国の情勢

### ■戦国時代の南奥羽

戦国時代の福島県周辺は、たくさんのお大名や郡主とも呼ばれる小規模な国人領主により、細かく分割されていました。主な領主を挙げると、浜通り(海道)は相馬氏と岩城氏。中通り(仙道)は伊達氏、畠山氏、大内氏、伊東氏、二階堂氏、石川氏、結城(白川)氏。会津はおおよそ芦名氏の勢力下にありました。これらの領主たちの多くは、源頼朝が平泉の藤原氏を攻め滅ぼした戦いの恩賞として、鎌倉幕府から領地を与えられたものです。これに対して三春の田村氏は、正確な出自はわかりませんが、地元の有力者が実力で勢力を拡大し、戦国大名にまで成長したようです。

互角に渡り合うという特異な存在でした。田村氏の動向  
天文11年(1542)、陸奥国守護であった伊達植宗と嫡男・晴宗の間で争いが起き、周囲のお大名たちを巻き込んで天文の乱に発展します。当初は芦名盛氏や田村隆顕、相馬顕胤らの支援を受けた植宗の方が優位でしたが、田村氏と仲が悪かった芦名氏が晴宗方に転じると、晴宗方が優勢となり、同17年(1548)に將軍足利義輝の仲裁で和睦します。この結果、植宗は丸森城(宮城県丸森町)に隠居し、晴宗も伊達氏の本拠を桑折西山城から米沢城に移しました。そして翌年、相馬顕胤の娘・喜多が、津島・葛尾・古道・岩井沢の4ヶ村をたずさえて、隆顕の嫡男・田村清顕に嫁入りました。その後、一度は芦名氏に敗れ安積・岩瀬郡から撤退した隆顕ですが、永禄2年(1559)に今泉城(旧岩瀬村)を攻め取ると、叔父の月斎を城代として安積・岩瀬攻撃の拠点とするともに、南から侵攻してきた佐竹氏に対しては芦名氏と連携して対抗しました。

■愛姫の誕生から嫁入りへ  
喜多の嫁入りから19年経った永禄11年(1668)、愛姫が生まれました。

隆顕の死後も、清顕は安積郡各地に勢力を拡張しましたが、これをよく思わない芦名氏は、佐竹氏と組んで、二階堂、石川、白川、岩城氏らと連合したため、田村氏は周囲を敵に囲まれるようになり、す。こんな時に、伊達輝宗の嫡男・藤次郎政宗の噂を聞いた清顕は、12歳になった愛姫を伊達家に嫁がせようと考えていうようになっていきます。

### ◆特設ウェブサイトを開設

町では、愛姫を全国的に広く周知し、PRを図っていくことを目的に愛姫生誕450年を記念した特設ウェブサイトを開設しました。特設サイトでは、愛姫の歴史や町内で愛姫に関連する場所などを

紹介しています。広報みはるで特集した記事も随時更新していく予定です。スマートフォンでもご覧になることができますので、ぜひ、ご覧ください。



特設サイトバナー  
町ホームページや観光協会ホームページからもバナーをリンクしてご覧になることができます。



特設サイトQRコード



### 愛姫生誕450年記念

## 「陽徳院 愛姫」

今春、歴史民俗資料館では、愛姫の特別展を開催します。

愛姫は、天正7年(1579)に米沢の伊達政宗の元へ嫁入りして以来、三春に帰ることはありませんでした。そこで、439年ぶりの里帰りとして、愛姫の木像と琵琶を借り受ける予定です。

木像は、松島の瑞巖寺に収められたもので、愛姫が83歳の時に、息子の忠宗が愛姫のための寺・陽徳院を建立し、開眼したものです。琵琶は、愛姫が嫁入りの時に三春から持参したといわれるもので、愛媛県宇和島の伊達家に伝わったものです。

ほかにも、初めて三春で展示される資料がたくさんありますので、楽しみにお待ちください。

- ▶日時 4月7日(土)～5月13日(日)  
午前9時～午後4時30分  
(5月7日は休館日)
- ▶入館料 一般・大学生／500円、  
小中高生／250円